

10月20日に発生した鹿児島県奄美地方における豪雨で3人が亡くなったが、2人はグループホーム「わだつみ苑」に入所していた要介護女性だった。ほかの1人は土砂災害により倒壊した家屋の下敷きになった高齢女性である。

降雨は、例えば奄美市で1日の雨量62.2ミリ、3時間雨量35.4ミリ、1時間雨量13.7ミリ。いずれも観測史上最大であった。

このような雨は全国各地で降り、水害や土砂災害が起こるが、人命を失うことだけは避けたい。

昨年も山口県防府市の特別養護老人ホーム「ライフケア高

砂」が土石流の直撃に遭い、7人の入所者が亡くなった。近年の豪雨災害では、災害弱者関連の施設で犠牲者が増えている。保育所など乳幼児施設で間一髪だった例も増えている。

こうしたなか、土砂災害警戒区域に立地する災害弱者関連の施設、特に特別養護老人ホームを中心に安全性確保への動きが始まっている。これらの施設はかつて地代が安く、反対運動などが起きにくい中山間地域などに立地する例が多かったのだ。

土石流が突き抜け、そこで7人が犠牲になった。このことを考えると、土砂災害危険地域(山や斜面のすそやがけ地や急傾斜地)や氾濫災害危険地域(川や海の堤防や護岸からおよそ500メートル以内)の災害弱者関連の施設は、万が一の



### 災害弱者関連施設は2階建てに

は、保育所の乳幼児66人と職員11人が洪水氾濫で孤立し(1・9メートル浸水)、全員ヘリコプターで救助された。この水害では11の小・中学校が孤立し、生徒は帰宅できず、一晩校舎で夜を明かす始末であった。

それでは、土砂災害や洪水災害からどうしたら身を守るのだろうか。

ことを考えて2階構造とし、大雨の際は入所者は早期に2階に上がる。

大半の犠牲者は平屋建て、もしくは1階で死亡しているという事実がつかなければいけない。わだつみ苑は平屋であったし、ライフケア高砂では1階

ことを考えて2階建てでない場合、近くの堅固な2階建て以上の建物所有者と協定を結び、早期避難する。

これは、住宅の場合もあてはまる。市街地にすでに水が出ている場合、屋外避難はかえって危険である。「平屋は水害や土砂災害に弱い」ということを常識にしたい。

者の90%は1階で発生していること、そして洪水氾濫でも、家が流されるような大洪水を除き、避難が遅れたら、2階に緊急避難すれば助かることを知ってほしい。  
足が不自由な高齢入所者が多い場合、平屋の施設になりがちだが、非常時は2階の方が安全であることをせひ考慮してほしい。  
(河田恵昭・関西大学社会安全学部長)